

## 農業情報総合研究所／いちじくレポート

### 「都市近郊果樹園の完熟いちじくとお客さんとのコミュニケーション」 ／高橋果樹園(立川市)

2024年6月13日、立川市の「高橋果樹園」のいちじくのハウスを見学することができました。高橋果樹園は立川駅からモノレールで4駅、駅から徒歩5分のところにあります。住宅街の中に60アールほどの農地があります（この農地以外の場所にも高橋果樹園の農地があります）。江戸時代から養蚕、植木を行ってきました。現在の代表である高橋尚寛さんが20年ほど前に就農してからブルーベリーの栽培を始めました。「果実をつくってみたかった」からです。その後、イチジク、ブドウ、柿、梨、キウイなどの果実も栽培しています。多品種を年間栽培することで、卸し先であるホテル、飲食店などの信頼を得ました。



いちじくはハウスで栽培しています。10アールほどです。地植えとポットでした。地植えは一文字仕立てです。枝の誘引は低めです。作業をしやすくしています。点滴灌水しています。ハウスはいちじくの実が痛まないように雨除けのためです。さまざまな創意工夫をされています。栽培している品種はビオレソリエス、榊井ドーフィンなどです。8月から10月まで出荷しています。ホテル、飲食店などに卸すだけでなく、高橋果樹園併設の直売所でも販売しています（週のうち土曜日と月曜日だけです）。いちじくが一番美味しく食べることできる完熟の状態です（完熟のいちじくの流通は難しいです）。お客さんが美味しい完熟いちじくを食べ比べできるようにしたいと考えており、良い品種はないか探していらっしゃいました。



ぶどう棚の下で直売をしています。ドラッグストアなど商業施設の多くある通りに面しているので、お客さんがたくさんいらっしゃるそうです。旬のブルーベリー、いちじくなど果実のほか、野菜の販売も行っています。直売所でのお客さんとのコミュニケーションを大切にされています。

高橋果樹園は都市農業として多品種の果実を年間栽培されています。周辺にお客さんも多く住んでいるから果実を通してコミュニケーションをとり、お客さんから果実への感想などあとに続くヒントを得ることができます。また、住宅街の中にあるからこそ、お客さんは完熟のいちじくを美味しくいただくこととともに、高橋さんからいちじく栽培のお話を聴くことや思いにふれることができます。

